

西暦	和暦	石狩地方防風林 (全体)	石狩防風林 (花川北・南)	屯田防風林	生振防風林
1868	明治1年				
1869	明治2年				
1870	明治3年				
1871	明治4年	石狩、札幌、空知の諸郡の原野は出願の上、随意の開墾を許可する。石狩町史 (上巻) p.407	岩手県移民…バンナグロに二十戸移住…。石狩町史 (上巻) p.407		宮城県遠田郡の移民三戸生振に入地、…。「石狩町史 (上巻)」 p.407
1872	明治5年				
1873	明治6年				
1874	明治7年				
1875	明治8年				
1876	明治9年				
1877	明治10年				
1878	明治11年	11年10月の「森林監護仮条例」では、第2条に、伐採を禁じ、3等林外に置く者次の如し。…土地の風致を装飾する者 風防 国郡町村の境界を表する者…「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.139 (注：3等公林は民願により伐採するもの)			
1879	明治12年				
1880	明治13年				
1881	明治14年				
1882	明治15年				
1883	明治16年				
1884	明治17年				
1885	明治18年				
1886	明治19年	明治十九年…開拓使岩村判官の英断で開削が始まった琴似新川の工事がなかったならば、屯田はいまも農耕不能の沼地のままだったかも知れない。「屯田90年史」 p.215 明治19年には道庁から樹木伐採制限の布達が発せられている。「山林・原野に於て樹木伐採候節は左の諸項に関するものは其の都度事由を具し稟議すべし」「札幌市近郊国有林 (II) 防風林」北方林業Vol.51林修			
1887	明治20年			石狩街道と75林班で囲まれている地区は屯田町と称して篠路屯田兵村の跡を今の街区にとどめており、その南の境をなす保安林のそのまた南側は新琴似屯田の跡である。(中略)新琴似兵村は明治20年九州の旧士族を主対象に146戸が召募され、翌年さらに中国地方まで範囲を拡げて75戸を追募し、当初は220戸の規模であった。「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.155	
1888	明治21年				
1889	明治22年			篠路兵村は明治22年、やはり220戸の規模で、九州・中国などから募集して構成されたのである。「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.155	

西暦	和暦	石狩地方防風林 (全体)	石狩防風林 (花川北・南)	屯田防風林	生振防風林
1890	明治23年	明治19年2月から23年8月までの4年有余を費やして、札幌—小樽間・札幌—江別間等の大小原野・低湿地帯に多くの幹支線排水運河を開掘して土地改良を行い同時に道路を開さく、20年には札幌附近9ヶ所4680余万坪の地質調査を行ない、うち270余万坪を殖民適地として貸付けや払下げを行いなどして、この近傍の開拓が進められていった (中略) 明治19年から殖民地選定事業を興し、先に述べた地質調査なども行ないながら開拓適地の選定を行うと共に、明治23年より殖民地全般の区劃側設を開始した。ここに開拓地は自然的條券からも、区劃や面積からも、一定した規格によって選ばれることになったのであり、同時に農耕地の間に森林をそのまま残置した防風林帯を設けその維持造成につとめる方針も新たに採り入れられた。「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.138		明治二十三年には…新琴似屯田兵の第三中隊長安藤大尉の企画で (中略) 安春川の開削が施工された。この川の新設工事は春山某が請負人だったことから…安春川と命名されたという。「屯田九十年史」p.217	
1891	明治24年				
1892	明治25年				
1893	明治26年	「防風林」は北海道庁が国有未開地を殖民地として処分するため、樽川、花畔、生振原野の「殖民区劃側設」を行った時、住民の要望によって設置されたもの。「共生の森」p.47	石狩国石狩郡花畔村 村民契約証「第一条 本村ハ海辺ニ接近シ海風常ニ荒キヲ以テ農作物ニ及ホス害甚タシ故ニ禁伐林ノ設ケアリ… 右之通相守リ可申若シ條件ニ背クモノハ村民一統交際セサルモノトス…」惣代 山本多蔵、同 金子清一郎、他八十四名の村民。「共生の森」p.48		生振原野の区画測定実施のとき、防風林に位置付けられる。(生振筋違防風林、生振基線防風林も同様)「生振村愛知県団体開拓百年史」p.29
1894	明治27年		同二十六年、原野区画を測設し翌二十七年貸付を許可するや、出願して移住する者多し、同年また石川県団隊移民等三十六戸、予定存置を出願し許可得て先ず二十五戸移住す。「風雲に耐えて 石川県移住百年記念事業協賛会」p.9		
1895	明治28年			1895年 (明治28年)、道庁によって寺尾堀を延長し茨戸まで一直線に北上する現在の下流部が開削された。当時寺尾堀を含むこの新しい下流部は「琴似新川」とよばれたが、1925年 (大正14年) ごろ北6条以東の旧大友堀の下流部が埋め立てられたこともあり、こちらを創成川とするようになった。明治時代に創成川下流はしばしば溢れた。「Wikipedia」(創成川より)	
1896	明治29年	29年5月「殖民地選定及区劃施設規定」を定めて (中略) 保存林 防風林風致林水源涵養林等ニ区分シ防風林ハ少クモ1,800間毎ニ之ニ相当スル土地ヲ適宜存置スヘシ「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.138	花畔村記録「風防林保護規約ニツイテ」村民一統商議之上決定候也。総代人 金子清一郎記。「共生の森」p.50		
1897	明治30年	明治30年には「森林法」が施行され、「予定保安林」は告示の上保安林に編入された。「札幌市近郊国有林 (II) 防風林」北方林業Vol.51林修			
1898	明治31年				

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
1899	明治32年		石狩国石狩郡花畔村「風防林之儀ニ付願」を北海道庁長官に提出。防風林に設定した箇所が部分的に開墾されてしまったり、無立木地も多く、また村民契約で防風林の伐採を禁止しているにもかかわらず守らない者も出ている。このまゝで居ると天然林の更新はおぼつかないのみか、防風林の役目すら失われる心配がある。それ故實際を調査して営林方法を法律によって設定してもらいたいという主旨である。「共生の森」 p.50～52		
1900	明治33年		次テ明治三十三年に至り益風防林ノ必要ヲ感シ其八月村民又協議シテ風防林守ヲ置キ風防林ノ監督ヲ為サシムルコト、セリ「風防林保護規約」第一条～第八条。「共生の森」 p.49		
1901	明治34年				
1902	明治35年	明治35年の「篠路兵村給與地配當調」によれば、兵村を取り囲むように、篠路村及び花畔村に5ヶ所75,416坪の「風防林」がすでに区画されている。ただし、開拓に伴い樹木が伐採されていたので、相当期間、草地や天然更新のヤマグワ、ヤナギ類などの森林となっていたようである。「札幌市近郊国有林（II）防風林」北方林業Vol.51林修			
1903	明治36年				
1904	明治37年				
1905	明治38年				
1906	明治39年				
1907	明治40年	明治40年の「北海道国有林整備綱領」にもみるように、当時の国有林における造林事業は、既往の荒廃保安林を第一の対象とし順次（中略）北海道に於いて特に国有林における事業として余り造林技術の進んでいなかった大正初期に膨大なしかもヤチダモという特殊な樹種の見事な人工林造成がなされたことは刮目してよいことであろう。「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年 p.146			
1908	明治41年				
1909	明治42年	防風林地を道庁から農林省に移管、営林局の所管となった。「屯田90年史」 p.197		このころ篠路兵村土功組合も誕生、水路として新川幹線、分派線計画が練られたが、この水路を耕地を潰さず防風林内に施設することになり、営林局に陳情した。営林局では無償で土功組合に貸与してくれた。「屯田九十年史」 p.197～198	
1910	明治43年				
1911	明治44年				
1912	大正1年				
1913	大正2年				

西暦	和暦	石狩地方防風林 (全体)	石狩防風林 (花川北・南)	屯田防風林	生振防風林
1914	大正3年			大正天皇の即位記念事業として、篠路兵村会が中島橋から第二横道路間、七百二十間(千二百九十六メートル)に七千本のポプラを植えた。「屯田90年史」p.198 明治二十九年及び大正五年作製の陸地測量部五万分の一地形図に防風林の記載が全くないこと。明治二十九年版には現在の防風林のある位置に草地の記号、そして大正五年版には用水路の記号しか無く、これは単なる記載ミスとは考えにくい。(中略)新琴似北小学校のまとめによると今残っている最も古い防風林づくりの記録は…七千本のポプラ植樹。これは昭和五十四年の同校実地調査で確認された最多年輪樹群とも一致しており、屯田防風林の発祥の年は、この大正三年とみてよさそうだ。「新琴似百年史」p.704	
1915	大正4年			造田事業の根幹となるものは、何をおいてもまず灌漑溝の築設で、綿密な水源の調査をまって大正四年…着工し、翌五年…完工した。新川と創成川の両川から取水する幹線灌漑溝は、兵村地域の民有地七〇〇ヘクタールに灌水できるという当時としては偉大なもの(中略)幹線水路は、導水門から茨戸街道に沿って北上、新琴似村を通過し、屯田防風林を縦断、屯田第二横線に沿って一直線に旧発寒川に致る延長七・六五九キロの大幹線「屯田百年史」p.167～173	
1916	大正5年				
1917	大正6年				
1918	大正7年				
1919	大正8年	現行保安林台帳と旧台帳とに次の記載がみられる。(中略)68～77林班……大正8年4月8日 告示第289号(中略)内陸防風林として農耕地の風害防備を目的として拓殖計画にもとづき指定した。「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.143(注:68～77林班は石狩・札幌地域の内陸防風林の全てが含まれる)		分派線が網の目のようにはりめぐらされた屯田は、一挙に造田が進み、大正八年(一九一九年)秋には、約六〇〇ヘクタールの美田に黄金の穂が垂れるようになった。「屯田百年史」p.176	農林省告示二八九号で保安林に指定された。「生振村愛知県団体開拓百年史」p.29
1920	大正9年				
1921	大正10年	大正10年と11年に保安林に指定され、国有保安林として現在に至っています。「防風保安林の現状と課題」北方林業Vol.53西田信造「国有防風林造成事業」が大正10年から発足した。…防風林に対する事業としては大きなものであり、国有防風林の大体の形を確立したものであった。「都市化地域防風林の整備調査報告書」札幌営林局1975年p.141			
1922	大正11年				
1923	大正12年				
1924	大正13年				
1925	大正14年				
1926	昭和1年				
1927	昭和2年				
1928	昭和3年				
1929	昭和4年				
1930	昭和5年		昭和5年には「花畔土巧組合」ができ、同10年には花畔村では327町歩の田園が造られました。「ふるさと いしかり」1997年石狩市教育委員会p.126		

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
1931	昭和16年				大正7年生振捷水路の工事が始まり…300万円の巨費と二十数名に上る殉職者を出し昭和6年5月に完成しました。「ふるさと いしかり」1997年石狩市教育委員会 p.123
1932	昭和7年				
1933	昭和8年				
1934	昭和9年				
1935	昭和10年			昭和十年にポプラ、ドイツトウヒ、ヤチダモなどを植えたが、これが現在の林相を形作る主要樹種である。「新琴似百年史」 p.705	
1936	昭和11年				
1937	昭和12年				
1938	昭和13年			同十三年の大風でポプラがかなりの被害を受けた。「新琴似百年史」 p.705	
1939	昭和14年				
1940	昭和15年				
1941	昭和16年				
1942	昭和17年				
1943	昭和18年				
1944	昭和19年				
1945	昭和20年	敗戦まぎわまで三百人以上の朝鮮半島の人たちが、花川地区の南北に伸びる斜め防風林の中で戦闘機を隠すための工事をしていた。 （中略）「戦争中、公民館生振分室の裏にある基線防風林のところに、木を切って小さな飛行機が二機か三機かくしてありました。他の木におおわれて上空から見えないようにね。筋違防風林の生振五線から南二号のあたりにも飛行機があったねえ。…」石狩百話 p.323～324		当時新琴似のダイコンの作付面積は百五十～百六十町（ヘクタール）といわれた。全町耕作面積の九五パーセントを占め、札幌市需要の八〇パーセントを生産した。「新琴似百年史」 p.442	
1946	昭和21年				
1947	昭和22年		花畔地区では昭和22年に…55ヘクタールが田圃となり、続いて23年には紅葉山揚水組合が発寒川から揚水して25ヘクタール、翌年南線地区では250ヘクタール、樽川地区では24年から25年にかけて356ヘクタール造田された。「ふるさと いしかり」1997年石狩市教育委員会p.132	昭和二十二年ころ、屯田二番通り以北、四番通りまでの八百二十四間（千四百八十三メートル）の防風林地十二ヘクタールにヤチダモを植栽した。「屯田90年史」 p.200	

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
1948	昭和23年			第三横線から第二横道路間にヤチダモ、第三横線から東へ、第一横線から百間（百八十メートル）の間にはカツラが植えられたが、これは春の融雪水で根が浮き、凍上も加わって全滅してしまった。「屯田90年史」p.199 防風林愛護組合は昭和二十三年に秋田営林署長を定年退職して屯田に移り住んだ石川静一が発起人となって地元の農耕者で組織された。「屯田90年史」p.203	
1949	昭和24年			カツラが駄目ならヤチダモで…と改植され、この防風林は全面的にヤチダモ防風林となった。「屯田90年史」p.199	
1950	昭和25年				
1951	昭和26年			愛護組合長に粟生亨が就任。「屯田90年史」p.205（粟生亨）	
1952	昭和27年				
1953	昭和28年				
1954	昭和29年		戦後の昭和二十九年に森林愛護組合をつくり防風林を守ってきた阿部重利は、「当時、山（防風林をさしている）には建築材になる立派なタモ木（ヤチダモ）がずいぶんありましたから、盗伐が繰り返されました。それで、みんなが以前のように結束して山を守るようにしなければと思ったわけです。山の状態は、特に水田化してからは水分が良かったのでしょうか、木は生き活きとしていましたし、山菜などもたくさんありまして、今とは全然違いました」「組合を結成してから一番力を入れたのは、火災を出さないことと、盗伐を防ぐことでした。心配だったのは、山菜や木の実を取りに都会からやってくる人たちです。（中略）ごみを捨てたり、水分が不足してタモ木が枯れるなど、周辺の生育の環境が厳しくなって、以前とは違った難しい問題を抱えています」「石狩百話」p.92～93。花畔上森林愛護組合のこと。	米軍機が防風林と民有地境界付近に墜落した。（中略）ヤチダモの幼樹二十本が焼失、犠牲となった。「屯田90年史」p.202 同年九月二十六日、洞爺丸台風が屯田地区を襲った。（中略）林地内のポプラ二百五十本が倒れ、林地は足の踏み場もないほどに荒れ、惨憺たる状況を呈していた。「屯田90年史」p.203（粟生亨）	
1955	昭和30年				
1956	昭和31年				
1957	昭和32年				
1958	昭和33年				
1959	昭和34年			札幌営林局長から琴似防風林森林愛護組合への感謝状「屯田90年史」p.204（注：屯田防風林の愛護組合の名前は琴似防風林森林愛護組合とある。造林事業と山火警防への協力に対して送られた。）	
1960	昭和35年				
1961	昭和36年				
1962	昭和37年				
1963	昭和38年				

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
1964	昭和39年			「秋になるとちょうど防風林を境に、屯田側の田は稲穂の金色が、新琴似側の畑は大根の葉っぱの緑色が一面に広がっているんです。それはきれいだっ た。私の防風林の原風景ですね」と話すのは、入植三代目にあたる粟生嗣恵（あおうつぐのり）さん。粟生さんによると、昭和三十年代まではそのような風景が見られたという。「新・北区エピソード史」（平成15年3月発行）より	
1965	昭和40年		町内初の大規模住宅団地の造成が翌40年開始されました。この地区はこれ以後通称「新札幌団地」と呼ばれましたが、…「花川南」に改正されました。「花川」の名称は…明治35年当時の花畔村と樽川村が合併して出来た「花川村」にちなむ名称です。「ふるさと いしかり」1997年石狩市教育委員会p.137		
1966	昭和41年				
1967	昭和42年				
1968	昭和43年				
1969	昭和44年				
1970	昭和45年			屯田防風林はシンナー遊びをする青少年の巣になってきたので、屯田青少年育成委、屯田連合町内会、北区役所、札幌営林局がタイアップして防風林地の公園化を計画、屯田、新琴似防風林育成保存会が結成した。「屯田90年史」p.206（粟生亨）	
1971	昭和46年		花川北地区は、昭和四十六年に北海道住宅供給公社が、人口規模二万三千六百人、六千戸を想定した住宅団地として開発したところである。「石狩百話」p.91	新琴似北小学校は、四十六年の開校以来、防風林クラブを設けて植物の採集や観察を続け、同校の「防風林の部屋」には長さ六メートルの防風林の立体模型を作って展示している。「新琴似百年史」p.707 屯田団地完成。	
1972	昭和47年				
1973	昭和48年			新琴似北小学校では、1973（同48）年以來ずっと、六年生の児童たち手作りの巣箱を木々に掛け、環境づくりに取り組んでいる。「新・北区エピソード史」（2003年）	
1974	昭和49年			「防風林に遊歩道造成を陳情」新琴似屯田緑化推進期成会・新琴似連合町内会 「新聞 新琴似」第56号 この計画では防風林内の雑草を刈り取り林間歩道を設置するとともに、新しくコブシ、エゾヤマザクラ、シラカバ、ナナカマド、イチヨウ、モミジ、オンコ、ヒバなどを補植しようというもので、昭和四十八年整地、四十九年には防風林に隣接する屯田、新琴似の町内会、小中学校父母、校長など約四百人が出動して約三千本の植樹を行った。「屯田90年史」p.207	

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
1975	昭和50年	「都市化地域防風林の整備調査報告書」（札幌営林局）昭和50年2月 財団法人 水利科学研究所（3分冊）調査対象防風林は67～77及び182林班（注：石狩・札幌地域の防風林全体）		<p>新琴似・屯田防風林保存育成会を結成し、住民たちの緑のまちづくりに向けての取り組みが始まっていった。そして要望だけではなく、町内会や小中学校の父兄など地域の人たちが営林署とともに、サクラやシラカバの植樹を行っていった。「新・北区エピソード史」（2003年）</p> <p>札幌営林局はかねてから札幌市北郊から石狩町の花畔、樽川をはじめ各所に点在する防風林につきどのような管理方法をとるべきかにつき、地元のアンケートをとる一方、武藤憲由北大教授ら学識者に実践調査を依頼していましたが、（中略）国有林第七十五林班は、既に耕地防風林の機能を失ったとし、今後は都市森林あるいは環境保全林として育成すべきだ…とされています。「新聞 新琴似」第65号 都市森林（環境保全林）に指定替えとなった新琴似—屯田境の防風林のうち、新琴似十二条三丁目裏の屯田日鉦団地と同南町寄りの林木欠落箇所約二百メートルに五月十一日午前九時から札幌営林署の手によってサクラ、白樺、ななかまど、紅葉の四種百五十本が両地区の地元関係者約八十名が作業に加わって美しく補植されました。「新聞 新琴似」第66号</p> <p>新琴似、屯田境防風林の秋の補植が十月はじめからはじまり、十一月五日で旧用水路を原状復帰した地点まで（新琴似運動公園付近までおよそ一キロメートル）の植えこみを終わりました。補植樹種は林内中央に桜、ナナカマド、白樺、ポプラ、イチョウなど、北側道路寄りにイチョウ、サクラ、白樺などのほか各所にどんな樹木が植えこまれているかを示すための混こう林。ほかに赤えぞ松やヨーロッパ赤松、ケヤキ、ニレ、ヤチダモ、アカシヤ、またカツラや栗なども若干植えられました。樹木が欠落している地域は第二横線から第三横線付近が主でこの地帯には十列からの樹木が植えこまれ=写真=ています。「新聞 新琴似」第72号</p>	
1976	昭和51年			<p>さらに整地を続け次々と植樹、一部空地にはラデノクローバーを蒔いて芝生としミニ公園化、地域住民がジンギスカン料理を楽しめるように、の願いをこめて、公園化は進み、五十三年春には早くもコブシ、エゾヤマザクラは花をつけ初（ママ）めた。「屯田90年史」p.207（栗生亨）</p>	
1977	昭和52年				
1978	昭和53年			<p>札幌営林署はこの防風林を環境保全林（都市森林）とすることを決め、同時に補植三年計画も打ち出した。「新琴似百年史」p.706～707</p> <p>屯田土地改良区は、七月末の臨時総会で屯田の水田耕作を今年限りでやめることを決めました。「新聞 新琴似」第106号</p>	
1979	昭和54年				
1980	昭和55年			<p>「新聞 新琴似」昭和55年第124号から昭和56年第135号まで「防風林に学ぶ教育」と題して新琴似北小学校が大きなコラムを執筆。</p>	
1981	昭和56年			<p>防風林両側に遊歩道 今年から4年計画 地域多年の要望実現「新聞 新琴似」昭和56年第138号</p> <p>昭和50年・55年・56年の大水害。豪雨が続き、茨戸川が決壊。道路や畑も1m以上冠水したところがあり、農作物も大被害を受けた。「屯田物語」p.153</p>	
1982	昭和57年				
1983	昭和58年				

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
1984	昭和59年				
1985	昭和60年				
1986	昭和61年			開基100年 新琴似を考える① まだ生きている「目的」、「無用の長物」「有害」論の中で「新聞 新琴似」昭和61年第193号	
1987	昭和62年				
1988	昭和63年		花川北防風林が、大量に伐採（376本）され大騒ぎになった。（中略）急ぎよ、「石狩町郷土史研究会々長」が呼びかけ人代表となって、三月二十四日に、「防風林問題を考える町民の集い」が開催された。p.39	1988年（昭和63年）に札幌市が札幌開基120周年を記念して札幌市民からの公募により「さっぽろ・ふるさと文化百選」を選定、町並み19ヶ所のひとつとして選ばれる。	
1989	平成1年		伐採跡地への補完として二〇〇〇本に及ぶ植樹が実施された。「共生の森」p.40		
1990	平成2年		花川南商店街の代表者から「南防風林の一部開放に関する請願書」が提出される。…北連町が「花川北地区防風林の恒久的保全に関する請願書」を提出。…「住みよい町づくりを考える会」と「生活クラブ・他五団体」が「南防風林の保存に関する請願書」を提出した。「共生の森」p.41	防風林を緑のオアシスに 公園化構想まとまる 豊かな自然生かし「広場」や「森」ふんだんに 昨年の調査でエゾリスが見られた（四地区）。「リスの森」としてエゾリスの好む樹木（ドイツトウヒ、オニグルミなど）の植栽を計画することになっている。「新聞 新琴似」第244号	
1991	平成3年		「防風林の保全を求める請願・陳情」は何れも採択となり、「南防風林の一部開放を求める請願」は不採択。「共生の森」p.41	防風林 環境整備計画進む 平成8年度完成へ 散策路や照明灯設置 市議会で発表「新聞 新琴似」第258号	
1992	平成4年		花畔上森林愛護組合解散、花川北森林愛護組合設立（組合長 小林行雄）。「共生の森」p.61～67		
1993	平成5年		花川北森林愛護組合「共生の森 防風林設置100年記念誌」（発行責任者 小林行雄）発行。	小谷俵藏 札幌市議会質問「樹木の成長は、時間的にも10年、20年あるいは50年という長い期間が必要であり、即効性などという手段はあり得ないことは明らかであります。それゆえに、これまでの失敗の反省や蓄積した豊富な経験から、長期的な視点での緑化推進が図られるべきものであり、その結果としてすばらしい緑の遺産を後世に引き継ぐべきと考えられるものであります。北区には、幸い開拓時代より先人たちが築いた貴重な遺産である屯田防風保安林があります。都市化の進展が急激に進んだ本市の平地系にあつて、幅50メートルから80メートルのまとまった樹林地が延長約8キロメートル、面積で約31ヘクタールにもわたって存在している姿はとても貴重であり、壮観でもあります。これは単に北区のみにとどまらず、全市的な財産とも言えましょう。」	
1994	平成6年				
1995	平成7年			通りゃんせエゾリス君 防風林第二横線に専用橋「新聞 新琴似」第301号（注：車道の上にワイヤーによる橋を架けた）	
1996	平成8年				

西暦	和暦	石狩地方防風林 (全体)	石狩防風林 (花川北・南)	屯田防風林	生振防風林
1997	平成9年		<p>通称「斜め防風林」に見られる植物(灌木も含め)ざっと数えただけでも47科117種もあります。これは植物愛好会の阿部義孝さんが調べた結果で、そのリストを次につけておきます。ここでの代表的な花は、二号線沿いなどで翌目立ちますが、オオバナノエンレイソウで大きな群落がみられます。…最近、花川南地区では下水道の普及や発寒川の改修で地下水位が低下し湿った場所を好む植物、例えばオオバナノエンレイソウ、ミズバショウ、スマレ類は減少傾向にあります。これとは対照的に林内には最近とくにツタウルシが増えてきて、かぶれる人もでております。ツタウルシは開けて陽当たりの良い場所を好みます。増えた原因は、防風林内の下草を定期的刈っているためで人が必要以上に手を加えたためです。「ふるさと いしかり」1997年、石狩市教育委員会p.45</p>		
1998	平成10年			<p>緑溢れるさわやかストリートへニュー防風林ポプラ通り 今春、せせらぎ誕生 たっぷり水と緑と土と(2ページ見開き記事)「新聞 新琴似」第336号</p> <p>屯田防風林に手づくり郷土賞 自然…歴史にふさわしい整備 建設省認定 「親しめる緑地空間」安春川に次ぐ栄冠 「新聞 新琴似」第336号</p>	
1999	平成11年			<p>ポプラ通り 市「都市景観賞」受賞 街づくりの活動も評価 「新聞 新琴似」第358号(「野生動物との共生を目指した道路と緑地」というテーマ)</p> <p>しかし、あるアイヌ民族の人権を訴える団体がこの計画の全貌を知って、…オオウバユリ生息地の保護を訴えたのだ。実際、私が調査したときには、鉄道の高架下は半分ほど裸地が剥き出しの状態になっており、残りの半分におオウバユリが点在…現在は、人が立ち入らないよう、この群生地をテープで囲っている…。「大竹正枝 ブログ」</p>	
2000	平成12年				
2001	平成13年	<p>現在危険木の処理は1年に10回程度あります。昨年当署では立木約120本を処理しました。(中略)また、住宅や道路に伸びた枝が屋根や街路灯を覆うなどの問題や「ゴミが捨てられる」「虫がでる」「蜂が巣をつくる」などの苦情や要望は頻繁に発生しています。二つ目の問題は、民有地と防風林の境界が侵害され、林地が無断で使われる、いわゆる漫用といった管理上の問題です。「防風保安林の現状と課題」北方林業Vol.53西田信造</p>		<p>ポプラ通りを大切に 沿線町内会が守る会設立 「新聞 新琴似」第379号</p>	

西暦	和暦	石狩地方防風林（全体）	石狩防風林（花川北・南）	屯田防風林	生振防風林
2002	平成14年			さらに2002（平成14）年には、防風林を囲む住民たちの新しい動きがあった。防風林に隣接する町内会が中心となって「ポプラ通りを守る会」を結成。これは、自然環境を守るためにどうすればよいか、住民たちが自主的に考え、地域に提案していこうというものである。「人とかかわり合いの中で防風林は自然体系が変わってきた。自生のセリや水芭蕉、リスの姿も見えなくなった」と、約四十年間新琴似に住み、自身も毎日、防風林を散策するというポプラ通りを守る会会長の武田良夫（たけだ よしお）さんは話す。武田さんは、「今までは利用するだけだったが、この地域に残る貴重な自然を残していくために、自分たちで考え、自分たちの手で取り組まなくてはいけない」と言葉を続ける。「新・北区エピソード史」（2003年）	
2003	平成15年		花川北森林愛護組合「共生の森 第二集」発行。	7月12日に樹木勉強会 ポプラ通りを守る会 ホテルの森構想も 新聞 新琴似」第399号 防風林を「いい森」に 樹木医が提言 将来見据え整備を 守る会が学習会 ポプラ通りを守る会（武田良夫会長）は（中略）講師には南幌町在住の樹木医・吉田憲一さんを招き、住民ら四十人余りが、全国的にも珍しい都市型森林としての屯田防風林が今後どうあるべきかを考えました。「新聞 新琴似」第400号	
2004	平成16年			9月8日、台風により屯田一の二の防風林で、六十歳くらいの男性が倒木（高さ約二十四メートル）の下敷きになり、死亡した。	
2005	平成17年				
2006	平成18年				
2007	平成19年				
2008	平成20年				
2009	平成21年				
2010	平成22年				
2011	平成23年			山田大邦さん・池田政明さん JR新琴似駅ギャラリーで防風林の写真展。 北区土木部 故損木の伐採を実施	